

(別紙様式)

平成 29 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな よこましゅうらく 横間集落					
集落等の状況	市町村	八幡平市					
	代表者 氏名・住所	氏名	畠山 正徳		住所 八幡平市		
	地域の農用 地面積	計	田	畑	草地	採草放牧地	
		2,800a	2,200a	600a	a	a	
	構成員	世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45歳未満
		19戸	55人 (組織)	27人 (組織)	28人	31人	13人
農用地の作 付け状況	計	水稻	りんどう		その他		
	2,800a	1,050a	428a	a	a 1,322a		
集落等の概況等	集落等の概況	<p>横間集落は東北自動車道安代 I Cから西へ約 2km、JR 花輪線横間駅周辺に位置する農山村地域である。</p> <p>集落の全戸数は 19 戸（農家 13 戸、非農家 6 戸）、55 人、年齢構成は 65 歳以上の割合が 50.8%と高齢化が進んでいる。また直近の 5 年間で人口が 71 人から 55 人へ 16 人減少（約 1 割減）しており、特にも 15 歳～64 歳が地域外流出等により減少が著しい（42 人→26 人）。</p> <p>中山間地域総合整備事業（県営事業）によりほ場整備が行われ、水稻の他、りんどうが基幹品目となっている。</p> <p>地域内に水芭蕉の群生地（約 70a）があり、地域内外からの訪問者のため、案内板や遊歩道の整備をしている。</p> <p>嘉永六年（1853 年）、百姓一揆「横間の一揆」が起きた地とされるほか、天明の大飢饉（1780 年代）の時代に五穀豊穰を願って始まった「横間虫追いまつり」（八幡平市無形民俗文化財指定）を伝承（戦後一時期途絶え、昭和 58 年に復活）するなど、歴史のある農村地域である。</p> <p>「特製味噌」「特製焼肉のたれ」「味噌付けきりたんぼ」など、地域が愛着を持って受け継いでいる特産物・郷土料理がある。</p>					

	<p>集落等の組織体制図</p>	<pre> graph LR Root[横間集落] --- A[農業生産に関する活動] Root --- B[暮らしに関する活動] Root --- C[活性化に関する活動] A --- A1[農地の保全、管理] A1 --- A1_1[横間郷土づくりの会] A1 --- A1_2[横間水利管理組合] A1 --- A1_3[JA新しいわて横間農家組合] A1 --- A1_4[JA新しいわて横間女性部] A1 --- A1_5[生活研究グループ横間支部] B --- B1[集落間連携] B --- B2[自治会活動] B --- B3[農作業準備休憩施設の管理] B1 --- B1_1[横間自治公民館] B3 --- B3_1[八鴨白郷土づくり協議会] C --- C1[虫追いまつりの運営] C --- C2[特産物（味噌等）の作成] C --- C3[フラワーロード整備] C --- C4[水芭蕉群生地管理] C --- C5[盆踊りの開催] C1 --- C1_1[横間虫追いまつり保存会] C2 --- C2_1[横間自治公民館] </pre>
	<p>将来の目指す姿</p>	<p>① 横間虫追いまつりの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の伝統的な行事である「横間虫追いまつり」が継続されている。 ・ 祭りの継続により地域のまとまりが維持され、地域の伝統文化が継承されている。 ・ 地域外の人も祭りに参加し交流することで、祭りの活気が保たれている。 <p>② 地域の特産物の伝承と特産物を介した交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特産物（特製味噌、特製焼肉のたれ）や伝統料理（味噌付けきりたんぼ）が継承され、虫追いまつりの際に地域外から訪れた人に振舞う等、特産物を介した交流活動が行われている。 <p>③ 農地の保全・農業担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者及びその他の者（地域住民、団体など）により農地が保全されている。 ・ 農業の担い手確保により主にりんどうの生産が継続されている。 <p>④ 水芭蕉の群生地の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備、管理が継続され、地域外からも人が訪れている。

<p>集落等の概況等</p>	<p>地域の活性化の取組内容</p>	<p>1 地域の活動のきっかけ</p> <p>当地域は、天明の大飢饉（1780 年代）から続く「横間虫追いまつり」に代表される伝統文化や、地域の特色ある料理等を継承する取組を通じて、地域住民の親睦と融和を図り、住民の明るく豊かな生活の実現、住みよい地域社会づくりに取り組んできた。</p> <p>この地域住民の自主的な活動を一層推進するため、平成 3 年に横間自治公民館規約を制定し、地域の全世帯が加入して、個人生活の向上・共同生活の改善向上・生活環境の進展等に役立つ各種事業を実施する体制を整えた。</p> <p>その後も横間自治公民館が中心となり、生産活動においては横間郷土づくりの会や横間水利管理組合、J A 新いわて横間農家組合、J A 新いわて横間女性部との連携、地域の暮らしの活動においては「八鴨白郷土づくり協議会」等との連携により各種事業を実施してきたが、近年高齢化及び人口減少が著しく、特にも地域の求心力となっている「横間虫追いまつり」の担い手の確保が危ぶまれていた。</p> <p>そこで、平成 28 年度に盛岡広域振興局地域経営推進費事業「中山間地域等農村サポーター受入れモデル事業」を活用し、地区外のボランティア（大学生）を「横間虫追いまつり」の準備・運営に受け入れる取組を実施した。</p> <p>地区外の学生ボランティア受入れは、地域に活気をもたらしただけでなく、活動を外からの目線で見える機会となり、地域の魅力や資源を再認識し地域の将来を考える契機となった。このことから、集落での話し合いを重ね、平成 29 年 4 月に「地域ビジョン」を作成した。</p> <p>策定した「地域ビジョン」にもとづき、「いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業」（平成 29 年度申請）等を活用しながら、集落の目指す姿を実現する地域づくりに継続して取り組んでいる。</p> <p>2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果</p> <p>① 農業生産性の向上</p> <p>当地域は、打田内沢及びその支流沿いに集落がひらけており、狭小不整形な田が多く、農業の生産性が低かった。このため、平成 7 年に中山間地域総合整備事業（県営事業）の導入によりほ場整備を実施（平成 12 年完成）し、区画を 10a 以上の規模に拡大した結果、生産効率が高まった。</p> <p>また、J A 新いわて・八幡平市の基幹品目でもあるりんどうの栽培に昭和 45 年頃から取り組んでおり、地域内にりんどう育苗センター（昭和 59 年設立）を抱えるなど、地域の基幹産業となっている。当地域内の生産者が J A 新いわて花き生産部会の役員を務めた平成 27 年には農林水産祭園芸部門天皇杯を受賞するなど、地域一丸となっておりりんどう生産技術の向上を推進している。</p> <p>② 農地の保全・管理</p> <p>地域の農地・農村資源を保全するため、横間郷土づくりの会が中心となり、平成 26 年度から多面的機能支払交付金を活用して、畦畔・農用地法面等の草刈り（年 2 回）や水路の泥上げ等に地域共同で取り組んでいるほか、横間水利管理組合と連携して、水路の補修や更新を実施している。</p> <p>また、地域の環境美化を図るため、横間郷土づくりの会と横間自治公民館が中心となり、地域の基幹路沿いを中心に花の植栽を行う「フラワーロード」（総延長約 1 km）を、地域住民総出で整備している。</p>
----------------	--------------------	--

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p>③ 地域の伝統行事「横間虫追いまつり」の継承</p> <p>「横間虫追いまつり」は、県北部から青森県の下北半島へ分布域をもつ「虫送り行事」の一種で、男女一对の角のある鬼をかたどったわら人形を担ぎ、かねや太鼓の音に合わせ「五穀豊穰、稲虫はらえ、豊作祭りやー」と唱えながら歩く、「五穀豊穰」と「悪病退散虫追い」を祈願する祭りである。かつては地域一帯で取り組まれていたが、戦後の一時期途絶えていたところ、横間集落においては昭和58年に復活し、現在に至る。毎年7月第3日曜日を祭りの日と定め、地域住民はもとより、普段地域外に暮らす親類縁者等も、祭りに参加するため集まってくる。</p> <p>祭りの準備及び当日の運営は、横間虫追いまつり保存会が中心となり、全て地域住民の手によって実施されてきたが、地域住民の高齢化・人口減少により、「今年は何とか頑張るが、来年はどうなるかわからない」というほど、祭りの継続が困難視されていた。また、祭り自体も参加者の減少により活気がなくなることが懸念されていた。</p> <p>そこで、かつて平成20年に地域の魅力を尋ね、地域の将来像を提案するワークショップを開催した岩手大学農学部へ声をかけ、学生を「虫追いまつり」のボランティアとして受け入れる取組を、平成28年度に実施した。当日は学生7名（うち中国からの留学生6名）が参加し、会場設営・わら人形作り・味噌付けきりたんぼ作りなどの作業に従事した。</p> <p>学生ボランティアは非常に熱心に作業に取り組み、祭りの運営に活気が出ただけでなく、地域住民とも積極的な交流が図られたことから、学生・地域住民とも非常に評価が高く、平成29年度も継続して受入（岩手大学への中国人留学生10名）を行った。</p> <p>祭り参加者の受け入れ体制を整備するため、平成29年度いきいき暮らし活動支援事業を活用し、祭りに使用する備品等の更新を行った。</p> <p>④ 地域の特産品・郷土料理の継承</p> <p>地域住民と地域の女性グループにより、農作業準備休憩施設「やがましらの館」において、地元で収穫された大豆や野菜を使用した「特製味噌」「特製焼肉のたれ」を製造している。特製味噌等は、一度に大量に仕込み、地域内の世帯に配布し消費する他、地域外の地縁者等への贈答に使用する等、他地域との交流を深めるツールになっている。</p> <p>また、虫追いまつりの際には、特製味噌を使用した「味噌付けきりたんぼ」や、特製焼肉のたれを使用した焼肉が祭り参加者に振舞われる。</p> <p>特製味噌」等の特産品を継承するため、平成29年度いきいき暮らし活動支援事業を活用し、老朽化していた製造道具類の更新を行った。</p> <p>⑤ 水芭蕉の保全管理の実施</p> <p>横間集落の奥の沢沿いに、約70aにわたって帯状に水芭蕉の群生地が広がっており、毎年4月中旬に見頃を迎える。群生地につながる道（遊歩道）には、地域が独自に案内板を設置しているほか、往来には定期的な下草刈り等の整備が必要なことから、横間自治公民館が中心となり、毎年1回（4月上旬）に住民総出で整備作業を行っている。</p>
---------	-------------	---

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p>3 今後の課題と将来展望</p> <p>① 農地の保全・農業担い手の確保 高齡化により農業従事者が減少しているため、後継者を確保し農地を保全する必要がある。今後は、地域外ボランティア（大学生）等の受け入れを検討する。 農作業体験を通じての保全管理を地域外ボランティアとともに実施することにより、地域活性化を促し、農地保全・農業担い手の確保に向けた地域での意識作りをしていく。</p> <p>② 横間虫追いまつりの継続 人口減少・高齡化で人手不足となり「虫追いまつり」の準備・運営が困難になってきている。また、参加者の減少により祭りに活気がなくなることが懸念されている。祭りを継続していくためには、地域外からも祭りの運営等に参加してもらう必要がある。今後も地域外ボランティア（大学生）等の受け入れを実施し、祭りを継続していく。</p> <p>③ 地域の特産物の伝承と特産物を介した交流 「特製味噌」を製造する道具類が小さく余分な手間がかかっているうえ、老朽化している。受け継いでいくためには道具類の更新が必要となっている。今後は、地域外ボランティア（大学生）等の受け入れを検討し、「特製味噌」の伝承と「特製味噌」を介した交流に向けた取組を推進する。</p> <p>④ 水芭蕉の群生地保全 人口減少・高齡化により保全活動が将来難しくなるおそれがある。今後は、地域外ボランティア（大学生）との受け入れを検討し、水芭蕉群生地の保全に向けての地域の意識作りをしていく。</p>
---------	-------------	--

集落の活動写真



りんどうの収穫



りんどうの選別



水芭蕉群生地



水芭蕉群生地管理作業



横間虫追いまつり



味噌付けきりたんぽ作り



フラワーロードの整備



横間集落（全景）